

分院長
(一次診療を追求)



適切に連携を行うために一番必要なことは 自分ひとりで全てを解決したいと思わない意識

高度医療化が進んでいるからこそ
総合診療科の重要性が増しています。

Q：主にどのような活動をされていますか？

動物医療も人間の医療に近づき細分化されてきています。このグループでも専門科を志す獣医師が多く在籍していますが、私はあえてジェネラリストを志しています。人間の医療でも具合が悪いと感じたときに、いきなり専門科にかかろうとする人は少ないように、細分化が進めばこそ動物医療でも総合診療科の重要性が増してくると考えるからです。

その子がどういう病気なのか、何が必要なのか、的確な道筋をつける役割を担うことで、高度医療を漏らさず受診できるようにしたいと考えています。

そのためには日々の勉強を欠かさず、すべての診療科目にわたる広い知識に加え、グループ内の高度医療チームが現在取り組んでいる最新の治療についてもアップデートを怠らないことが必要だと考えています。

一番大切だと考えているのは
「自分ひとりで解決したいと思わない」こと

Q：どんな心構えで望んでいますか？

グループ医療において一番大切だと考えているのは「自

分ひとりで全て解決したいと思わない」ことだと思えます。「これは専門医に任せるべき」という判断をなるべく早くすること、そのためには余計なプライドを捨てることも必要です。自信がない科目こそ「素直に学ぶ気持ち」を持って専門の先生を頼ることができれば、病院としても個人としても得られるものが多いといえます。

地域に欠かせない病院にしたい。

Q：今後の目標について？

まずはこの病院を「ここに来れば安心だ」と地域の方に思ってもらえるような存在にすることです。

高度医療センターでは、病気を治して欲しいと希望される方が多く、ターミナルケアなどを求められることは少ないですが、この病院では「どうしていきましょうか」から始まります。飼い主さんの感情に寄り添うことができるよう、地域に馴染んでいく活動をしていきます。



西田 純平

動物医療センター赤坂 院長

得意とする科目：一般内科、一般外科、救急、血液内科、腫瘍、泌尿器内科
これまで幾つかの1.5次診療病院にて内科診療全般、一般外科、救急疾患を数多く経験。

- FRACTURE REPAIR IR 2018 参加 (Western Veterinary Conference)
- Uihon summer Program 2014 (Washington state university)